

第 1 回有識者会議における 主な意見について

主な意見①

【全体】

- 人口動態などのマクロ的な指標も見ていく必要がある
- 背景にあるウイルスの特性などの説明を加えると感染対策等との連動が理解しやすい
- 地域差による対策がわかるような整理が必要
- 賛否などの併記や客観的なデータの分析を踏まえ論点を示す必要がある

【個別論点】

- 学校教育と市町村の連携の迅速なあり方についても議論が必要
- 労働者にとってどういう状態であったか、コロナ禍における労働環境の振り返りが必要
- 生活困窮者への支援や、そういった方々の状況がどうだったのか、振り返りが必要
- テレワークなどが浸透した一方で、労働参加をやめる一定の方々がいたり、若い方の対人能力など、新たな問題が起きており、そういった課題について、できる範囲で議論ができればよい
- 差別・偏見問題への対応を論点に加えてほしい

主な意見②

【個別論点】

- 検査のキャパシティについて、保健所も含めて、北海道でどういう検査がされたかということについてまとめ、次に繋げるべき
- 行動制限について、無症状者や非感染者も含めた一律な制限が、最優先で取るべき対策だったのかといった点も重要な論点
- 保健所体制について、市町村との連携がどうだったか、振り返りが必要
- 「緊急事態宣言下の道独自の一斉休業」について、子どもの問題だけでなく、ひとり親家庭の問題でもある。これは「一斉休業」そのものの評価の材料にもなると思う
- 道の体制について、人は本当に足りていたのかなど、振り返りが必要。将来に向けての人材確保・育成もしていかなければならない

【今後の方向性】

- 保健所の体制。北海道がイニシアチブをとれるような体制の構築が必要。特に保健所設置市を含めて、協力体制をとることが重要。
- 北海道の特殊性を踏まえ、その地域地域で大きな流行が起きたときの対策は、今のうちに作っておく必要がある
- 新たな感染症危機が起こったときにどうするかということに関しては、正しい検査をして、情報を共有し、体制を作るということが一番大事